



▲熱いステージを繰り広げた参加者

**しらかわバンドコンテスト
熱気あふれるロックステージ**

11月26日、コミネス大ホール（会津町）で、「しらかわバンドコンテスト」が行われました。

特別審査員に人気ロックバンド「THE BACK HORNS」のリーダーでドラムの松田晋二さんを迎え、県内外から集まった13組のアマチュアバンドが、オリジナルソングを演奏し、ゆるやかなロックで会場を盛り上げた「ステラサテラ」が最優秀賞に輝きました。

様々なジャンルの音楽が披露され、来場した約500人の観衆を魅了しました。



▲講師の説明を熱心に聞き入る児童

**出前授業「お米の学校」
お米の歴史と文化を学ぶ**

11月29日、白二小で6年生を対象に、出前授業「お米の学校」が開催されました。「白河市産米の消費拡大および魅力発信事業」の一環で実施されたもので、お米の歴史や文化などのほか、お米をおいしく炊き上げるコツなどを学びました。

また、児童らが実際に「白河産コシヒカリ」を味わい、おいしさと魅力を実感しました。

市では、市内12の小学校で「お米の学校」を開催するなど、本市産米に触れる機会を創出しながら、今後も魅力を発信していきます。



▲講演をする山本さん

**市立図書館利用促進講演会
後世に伝えたい白河人の心**

12月3日、りぶらん（道場小路）で、時代小説の名手である直木賞作家、山本一力さんを招き講演会が行われました。

山本さんは、戊辰戦争の際に長州藩の兵士たちが故郷へ持ち帰り、今も山口県内で伝承されている「白河踊り」や白河で出会った人とのエピソードなどを交えながら、白河人の心に受け継がれている「人を気遣う心」の大切さを語りました。

会場に詰めかけた約200人の聴衆は、山本さんの世界観に耳を傾けていました。



1. 歩道を彩る街路樹の電飾 2. やわらかな光に包まれた白河駅 3. 鮮やかに輝く光のトンネル 4. 関係者による点灯式の様子 5. ペットボトルで作られたクリスマスツリー

**白河駅前イルミネーション点灯式
1月31日まで開催**

12月2日、J-R白河駅前イベント広場で、恒例の「白河駅前イルミネーション点灯式」が行われました。

このイルミネーションは、市中心市街地活性化協議会が、まちなかのにぎわい創出を目的に白河建設親和会をはじめ、関係機関の協力を得て行っているものです。

今年「みんなのヒカリ2016（未来へと続く道）」をテーマに、同駅前から白河文化交流館コミネス（会津町）までの街路樹に、約3万個のLED電球が飾り付けられました。歩道に設置された光のトンネル

では、無数の明かりが夜空に輝く星のように、神秘的な空間を演出しています。

また、同広場では白河商工会議所青年部の主催による「ペットボトルツリーコンテスト」が行われ、市内小・中学校、高校、企業などによるペットボトルで作ったクリスマスツリーが飾られ、優秀作品が表彰されました。

イルミネーションの点灯は1月31日（火）までの間、午後5時から午前0時まで行っていますので、心を癒す美しい輝きを、ぜひご覧ください。



▲登山を楽しむ参加者

**日本一遅い山開き天狗山登山
晩秋の里山を満喫**

11月23日、表郷総合運動公園（表郷番沢）をスタート・ゴールに天狗山山開きが行われ、県内外から集まった約650人の参加者が、晩秋の里山を満喫しました。

四季折々の景色が楽しめる天狗山の魅力を知ってもらおうと、おもてごう里山クラブが開催したもので、登山道には、木づちを叩いて天狗を呼ぶという雲板や出会の鐘などが設置され、参加者は思い思いに山頂を目指しました。ゴール地点では、豚汁が振る舞われたほか、恒例の抽選会などが行われました。